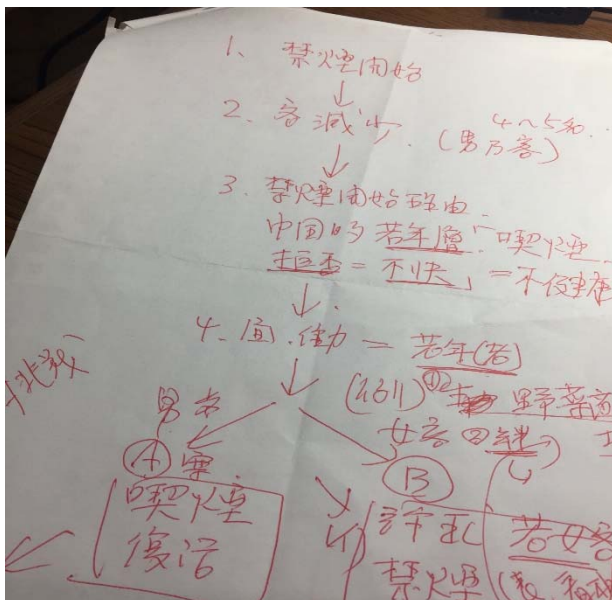


(日々雑感 74)



言葉、もっと具体的に言うと語学というのは道具です。何かを伝えるための道具です。それは単なる道具であって、目的そのものではありません。

言葉や語学を学んだり使ったりするのは「覚える」のが目的ではなく「伝える」のが目的なはずです。意思、意図の伝達が目的なはずです。ですから、いくら語学的に形を整えたからと言って、伝わらなければなんの意味もありませんし、逆に伝わるなら、そこそこ自由度があって良いはずです。

伝えたいことがあるから、言葉を覚えたり、語学を学ぶのなら良いのですが、それが無いのに形ばかり覚えて、その完成ばかりを追いかけても、完成した暁に「さて何を伝えれば（話せば）良いんだろう？」と最後に最大の難問にぶつかって、立派な包丁を持ったはいいが、腕のふるいようがないことに気づいて啞然としたりする羽目になったりします。

無論語学を「学」として習得したり、高度な意思伝達をするには、語学や言葉をキチンと学ばなくてはなりません。しかし「まず伝える」「どうしても伝えたいことがある」だけなら、そこまでの「完成」が是非とも必要で、それが無いとどうにもならないと言うわけではありません。

むしろ「学」からみれば、「垂流」「傍流」があっても良いような気がします。ドンドンいろんな方法、方便、方図を發明して、あの手この手、絵取り、図取りして、ジェスチャーなども使って「伝えたいこと」「話したいこと」があるのだということそのものが、それこそ「まずは相手に伝わればいい」のだし「感じて」もらうことこそが大切名のだと思います。良いのだとも思います。

一方、伝える「レベル」というものがあります。その中に「教える」レベルというものが存

在します。

例えば語学を教えるのに、大学の講師や教授のレベルにまで達しない限り教えることが出来ない。最低でも英検1, 2級くらい無いと教えられない、すたーとできないとおもっていたのですが、あるときある起業家さんが

「自分は最高レベルではない。かといって最低レベルでもない。上を見ればキリがない。しかし、自分の下にも下がある。そこらか見れば自分は上だ。だったら、今のレベルのこの位置に居る自分にだって、今のまんまで、その下のレベルに人たちに何かを教えられる事だって出来るはずだ。何も最高峰になるまで待つ必要もないし、今すぐにはじめられる。ならば、今のこのレベルでまずははじめてみよう。そしていずれだんだん高いレベルになっていこうと思ってははじめました」

と言うのを耳にして、語学だってそうだろうと思いました。特に会話は。

それで「出たところ勝負」英語とか、筆談「発明放題、我流転生、新版」中国語による日本語教室が始まったのです。

俊麗は、その日本語教室の二番目の生徒でした。一番目は「出たところ勝負」英語によるネパール人カレー屋さん、グルンさんの息子、日本で中学三年生のジャッティンくんでした。

(この子は、ついこないだネパールに帰国したので、今は日本にはいません)

それにしても筆談は結構疲れます。出来れば、俊麗が少しでも英語がしゃべれば良いのになあとよく思うのですが、俊麗や鄧「小平」さんは在中国時代に英語を習ったはずなのに全く覚えていないのです。

「何のことかさっぱり分からなかったあるよ」

と口をそろえて言うのです。それで、例の筆談でっち上げ中文で

「我希求、你学习、且、習得英語。中文、日文比較上、完全相違文章構造。英文、中文比較上、相当酷似文章構造。前者学习困難。後者学习比較的安易。理解？」

(勉強しなよ、英語。日本語覚えるよりずっと楽だぜ。中国語と英語は文章構造が似てっからな)

「そうなの？ん、でも確かに、そ、かも」

「且、在2020年東京五輪。外国客、英文客万来。事前過程、英文使用訪日客漸次的増加。当店来彼等。接客時、你使用英文、店評判拡大可能性存在。假定、宣伝無、口頭伝承伝聞拡大可能性残存。以、当店売上上昇、你给与上昇。有価値存在、挑戦価値、有。我、推測。我推奨挑戦英文学习」

(それに2020年のオリンピックには英語を話すお客さんがいっぱい来るだろ。その前に英語を話すお客さんがだんだん増えてくるよ。その時俊麗が英語でもてなしたら、お店の評判が高まるだろ？宣伝しなくたって口コミで拡がるよ。そうすれば、お店の売り上げが上がって、俊麗のお給料も上がるぜ。やってみる価値はあるともうよ。英語覚えるの)

「そっか。でも、英語むつかしい。できない。帰ると疲れてすぐ」

と言って俊麗は、手のひらを重ねて耳元に持って行き枕をすげて寝るまねをしながら、口を

とんがらせて、困った顔つきをしました。

こういうところが俊麗の「かわいい」ところです。

「大丈夫、我教育你、使用简单简便安易教授法！」

(大丈夫、俺が分かりやすく教えてやっから)

俊麗は、後ろに手を組んで、口を又とがらせて、子供がするみたいにイヤイヤをしました。

やっぱり言葉とか語学とか外国語会話とか言うのは、話したいこと、伝えたいこと、分かって欲しいことがあるのが一番大切なことです。もっと言えばそういう気持ちを引き出す、分かりたいという相手への関心、興味です。

45年前、海外の人に興味、関心を持って、当時インターネットも何もない時代に郵送返信に一回往復一ヶ月も要するような、今にしてみれば途方もない時間と手間が掛かる海外文通のペンパルを一人ではじめた自分と、今の自分に共通しているのはそんな感情や動機なのだと思っています。

(写真は僕の方で持っていたメモです)